ESSAY

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。
氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#49
イタリアワインの王「バローロ」

バローロ Barolo

トリノの南50キロ程に位置するバローロ（Barolo）は、小高い丘の上の人口700人程の小さな村だ。白トリュフで有名なアルバやスローフード発祥の地ブラ（Bra）にも近い。バローロ村を含むランゲ地方やロエーロ地方と呼ばれるこの地域一帯ではバローロ・ワインが造られる。見渡すばかりの丘陵全てに葡萄栽培が行われ、世界文化遺産に登録されている。

第一次世界大戦後の貴族階級の没落の結果、葡萄畑の譲渡や分割により数多くの葡萄栽培農家が生まれた。それはフランスのブルゴーニュ地方とよく似ている。僕が30数年前にバローロ地区に行くようになった後、バローロ・ボーイズと言うモダンタイプのバローロ・ワインを作る醸造家グループが現れ世界から注目を浴びる様になった。今では伝統的バローロとモダン・バローロが均衡を持って共存しているので、いろいろなタイプのバローロを試す事が出来る良い時代となった。

バローロ・ワインはこの地方のネビオーロ種から作られる。強いタンニンと酸が特徴で、色は濃く、ラズベリーやプルーンと言った果実味に白トリュフの香りが独特だ。長期熟成が可能で、古くから『ワインの王であり、王のワインである』と言われてきた。近隣のバルバレスコと並び、間違いなくイタリア赤ワインの最高峰の一つである。

バローロを産するピエモンテ州の葡萄栽培で特筆すべきは、全生産量の80％がDOCGである事だ。現在この地区には1,000を越すカンティーナがあると言われている。その多くがそれぞれにMGAという単一畑を持ち、その中には特級畑が綺羅星の如く点在している。ブルゴーニュで言うクリュ（Cru）であり、クリュ・バローロといわれる。僕はクリュ畑であるカンヌビ、ブッシアやジネストラの葡萄畑を車で走り抜けると、血肉が湧き上がって特別な興奮状態となる。クリュによってワインがそれぞれ素晴らしい特徴を持っているので、畑を通るだけで脳に蓄積された味覚の記憶が蘇るからである。

チェレット Ceretto

バローロ・ワインの名門「チェレット（Ceretto）」に足を運んだ。4つのクリュ畑毎に醸造所を持つという珍しいカンティーナである。金箔で出来た大きなドット模様が印象的なアートフルな門から入って行くと、ブリッコ・ロッケ畑の急斜面に張り出す近未来的なドームが出現した。イタリアの名あるカンティーナでは近年、畑や醸造所に融合するが如くアート作品が展示されているが、チェレットでは一つの建築がアートそのものとなっていた。

内部に入って更に驚いた。急斜面に張り出したドーム型の建造物は、透明なアクリルで構成された展望台だった。中央には日本人女性アーティストのジュエリーが飾られ、見渡すばかりのバローロ・クリュ畑の壮大な眺めと共に、異次元世界に迷い込んだ錯覚に襲われた。積極的にアーティストとアートとワインを融合させるチェレットの姿勢に好感が持てた。

眺めの良いテイスティングコーナーで4つのクリュ・バローロを試飲する。気に入ったBarolo Bricco Rocche 2005を数本購入した。

チェレットに来てみると、膨大な資金をクリュ畑に、醸造施設に、そしてアート作品に躊躇わず投資しているのがわかる。それは優れたバローロが世界の市場に受け入れられ、事業として大成功を収めているという証しでもあった。

ラ・モッラ La Morra

標高500m程の小高い丘のラモッラ村（La Morra）はお気に入りの村である。バローロ村と同様にクリュ畑であるブルナーテやチェレックイオ等の著名畑が丘を埋めている。バローロの多くの種類を揃える村営のワインショップに入ると、鮮やかな色合いの絵画の展示が目に飛び込んできた。ネッビオーロ畑に鮮やかな村々の建物や夕陽が美しい絵に一目惚れ。早速、人の良さそうな白髪の画伯と交渉し、2枚買うという事でかなりおまけして貰った。

夕方、ラモッラから丘を下りバローロ村方向へ車を走らせると、幾つもの丘に延々と続く収穫の終えたばかりだがまだ青い葉が茂るネッビオーロ畑の素晴らしい景観が眼前に現れた。今までに見た葡萄畑でこれ程美しい景観を見た記憶はない。すると遠くから霧が這う様にこちらに向かってきた。次第に迫る幻想的な光景に思わず車を停めてカメラのシャッターを切るのも忘れて見入ってしまった。ネッビオーロの名は霧という語から派生したと言うが、まさにその光景を観る事ができ感激一入だった。 ***P.B.***

チェレットのカンティーナ内部も、アイアンワークのオブジェやミニチュアのフレンチオークが連なる作品等、随分と目を楽しませてもらった。ラモッラ村での白髪の画伯は、ヨット乗りの絵描きの叔父によく似ていて好感が持てた。

チェレットの広大なバローロCru畑の背後には既に冠雪したアルプスが迫り、一幅の絵を見るようだ。急斜面に張り出す透明なドームからは、ネッビオーロの葡萄畑の延々と連なる様を、時間を忘れて見入ってしまった。

Profile

伊藤英一
事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVAとRIBの熱烈な愛好家。